

公民館等職員専門研修① 実施レポート

視聴期間：令和2年7月8日（水）10時～16時 会場：県生涯学習センター 参加者：32名

公民館等職員の知識や技術の向上を図るため、「公民館等職員専門研修」を実施しました。1回目は「公民館と防災～新型コロナと避難所～」がテーマです。ちょうど九州地方で大雨による被害が発生し、参加者にとって必要感の高まる中での研修となりました。

【講義】

日本赤十字秋田短期大学講師の及川 真一先生が、「コロナ×災害 避難所設営の考え方」のテーマで講義しました。講義では、東日本大震災における自身の経験から、「想像することが、防災の第一歩」であることを伺いました。防災のためには記憶力と想像力が不可欠であり、それに加えて経験と技術が必要であること、さらに個々の「自助力」がなければ、他人を助けるのは無理である（＝「誰かに助けてもらう」という発想は捨てなければならない）ことを学びました。その上で、避難所を運営していくためには「3密」（＝密閉・密集・密接）を作らないことが必要であり、感染制御を行わないとすぐにクラスターが発生し、医療体制がパンクしてしまうという恐ろしさを知ることができました。

そして最後に、「原則に固執せず、物資・道具がなければ考えて、それに近い物を作る」ことの必要性を強く説かれました。



＜及川先生＞

【ワークショップ①】（フェイスガード作成・テント設営・手洗いチェック）



ワークショップ①では、及川 真一先生の指導のもと、まずはクリアファイルを使ったフェイスガード作成に取り組みました。クリアファイルに数回録を入れるだけで簡単にフェイスガードを作ることができることを知り、受講者からは驚きの声が上がりました。次に、講堂を利用して屋内用テントの設営を行いました。数分で簡単に設営ができ、プライバシーを守ることができることを学びました。そして最後に、手洗いチェッカーを利用することで、接触感染を防ぐことの困難さを感じ取り、丁寧に手洗いをすることの重要性を理解することができました。

＜テント設営体験＞

【ワークショップ②】（避難所受け入れ体験）

ワークショップ②では、避難所の設営・受け入れに関する基本的な知識・方針を学んだ後、2班に分かれ、自分が勤務する公民館等で避難所を設営する場合は、どのような準備や手続きが必要なのかを検討しました。その後、1班が避難所運営側、もう1班が避難者側に分かれ、避難所受け入れ体験を行いました。避難者側は、認知症を患っていたり、家族が行方不明のため気持ちが不安定で泣き叫んだり、いらだって大声で叫んだりなど、様々な状況やタイプの避難者を演じました。それに対して、避難所運営側は検温場所や受付での発熱者・非発熱者別の対応窓口設置、避難者への対応等、見知らぬメンバー同士で初めて経験する事態に力を合わせて取り組んでいました。その後、避難所運営側と避難者側との役割を交換し、互いにさらに経験を積むことができました。



＜受付体験の様子＞

受け入れ体験終了後、各班ごとに意見の交換を行い、事前の準備の重要性和、想像力・構想力の必要性を再認識しました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・事前の備えが非常に大切だと改めて感じた。受付を担当したが、多様な人がいて想像以上に疲れた。
- ・現実的に考えられることばかりの内容で、実践に備えることの重要性を感じた。
- ・新型コロナ感染予防と災害避難という相対するものをどう解決していくのか、全く分からなかったのですが、とても役に立つヒントをもらいました。
- ・予想以上の研修でした。平時に非常時の時を考えていくことが必要だと思いました。実際公民館が避難所になった際、地域の人だけでなく関係ない人も来るので、その対応も必要だと感じました。